

資料 1

平成 31 年 1 月 17 日
社 会 福 祉 法 人
練馬区社会福祉事業団

平成 29 年度民営化特別養護老人ホーム等の運営状況について

- 1 法人全体 p 1
- 2 田 柄 特別養護老人ホーム等 p 2 ~ 6
- 3 関 町 特別養護老人ホーム等 p 7 ~ 1 1
- 4 富士見台 特別養護老人ホーム等 p 1 2 ~ 1 7
- 5 大 泉 特別養護老人ホーム等 p 1 8 ~ 2 2

1 法人全体

施設運営上の課題と取組の方向性

平成 29 年度～平成 30 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 社会福祉法人制度改革への対応

平成 29 年度の会計監査人による監査については、4 月の期首残高検証、8 月の整備状況評価および 2 月の統制テストなど一年間を通して実施され、本部事務局と事業所が連携し、適正に対応しました。

イ サービス品質向上への取り組み

5 特養でケアアドバイザー事業を試行実施し、ケアアドバイザーの助言を受けて各特養と本部でも介護サービスの質の点検を行い、介護サービスの維持向上に取り組みました。

ウ 地域貢献事業の取り組み

田柄特別養護老人ホームで、認知症カフェ「オレンジカフェたがら」を毎月開催し、658 名の参加がありました。認知症のご本人やご家族の参加もあり、やさしい地域づくりに向けて、認知症の理解の啓発も行いました。

エ 人材確保

人材確保に向けて、企業が開催する合同説明会への参加、OB の学校への訪問、施設見学会の実施およびインターンシップの受け入れなど、採用ルートの拡大に取り組みました。

平成 30 年度下半期～平成 31 年度の取り組み予定

ア 平成 30 年度介護報酬改定への対応

介護報酬改定後の各事業の状況について、役員、各施設長および各所長等で構成される経営会議で分析を行い、今後の対応について検討します。

イ 経営の安定化

人件費、事務費等の各事業の支出は増加し、平成 31 年度は、消費税も 10% に増税されます。今後も、大幅な介護報酬の増額は見込めないため、的確に支出管理を行います。

ウ 人材確保および育成への取り組み

2020 年度学卒者の採用活動は既に始まっています。今後も新規学卒者の採用は極めて困難になることが予測されるため、様々な手段を活用し人材確保に努めます。

エ 障がい者の安定した雇用

平成 30 年 11 月 1 日現在では法定雇用率を達成していますが、今後も安定した雇用を継続するため、就職面接会への参加や各種関係機関と連携し、職員の定着と採用に努めます。

オ 施設の老朽化への対応について

大規模改修の時期や方法について、引き続き練馬区と協議します。

2 田柄特別養護老人ホーム等

利用者状況 定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	100人	365日	36,500人
ショート	8人	365日	2,920人
デイ	40人	310日	12,400人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	28人	73人	109人	431人	545人	1,186人	4.2
ショート	0人	0人	66人	109人	209人	161人	103人	648人	3.2
デイ	25人	53人	345人	384人	242人	169人	111人	1,329人	2.45

平均要介護度 = 要介護1～5利用者の介護度合計 / 要介護1～5利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	35,135人	96.3%
ショート	3,309人	113.3%
デイ	11,089人	89.4%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	21人	21人	0人
デイ	37人	44人	7人

施設運営状況
苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 29 年 4 月	新規入居された方が、昼夜をとわず大声を出される方で、4 人居室の同室の方から「我々の生活はどうなるんだ。」との申し出がありました。	大声を出されるお客様には、一時的に静養室に移っていただき、その後他フロアの個室に部屋の調整を行い移っていただきました。また、ご本人が落ち着き、できるだけ大声をださないケアを工夫しています。
特養	平成 30 年 3 月	左胸・左わき腹に大きな内出血ができ、ご家族に入浴時にできたものと思われるという説明とお詫びをしましたが、実際の入浴介助の場面を見せてほしいというお申し出がありました。	ご家族にご本人の入浴の場面を見ていただきました。ベッドからストレッチャー、着替え後の車いす移乗時にぶつけたか圧迫した可能性が高いため、ラクラックス(移乗ボード)で気を付けて行うよう介助方法を変更しました。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	平成 29 年 9 月	夕食時、自立で食事を召し上がるお客様が食物をつまらせ苦しそうな表情をしていることに、同テーブルで介助をしていた職員が気付きました。背部を叩く、吸引をしましたが回復せず、救急搬送し病院に入院となりました。入院後も意識は回復せず、施設は退所となりました。	認知症があり、召し上がるペースが早い方のため、歯科医師に嚥下の評価をしてもらい小スプーンを使用し見守りと声掛けを行っていました。今後も歯科医師の評価を継続し、日常の観察で危険があるときは、食形態の変更等に迅速に対応することにしました。
特 養	平成 29 年 12 月	起床の介助で電気をつけると左額にこぶがありました。こぶは頭頂部にもあり左手首・両膝に内出血もありました。病院を受診すると脳挫傷による出血とのことで入院になりました。保存療法で回復され退院し施設に戻られました。	ご自分で動かれる方ではないので、ベッド上での排せつ介助時にサイドレールに接触したのが原因ではないかと思われます。大変出血しやすい方という認識をし、サイドレールには保護カバーをつけ、移乗もリフトで行うことを徹底しています。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養	平成 29 年 度	田柄特養を会場に月 1 回開催の「オレンジカフェたがら」は多いときは 70 人をこえるお客様の来所があります。実際の運営はボランティアスタッフが中心で行っています。
デ イ	平成 30 年 2 月	デイサービス主催で「認知症サポーター養成講座」を実施し 10 人のサポーターを養成しました。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	平成29年度	外部の専門家がケア全般を評価しアドバイスするケアアドバイザー事業を試行実施しました。接遇の向上、困難な事例への対応等に活用しました。
特 養	平成 29 年 度	看護師や施設内委員会の職員が講師を務める施設内研修を 15 回開催し、延べ 510 人の参加がありました。

配置人員数【平成 30 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	40 人	6 人	45.3 人	5 人	5 人	8.7 人	5 人	16 人	78 人
		(33 人)			(3 人)					
デイ	1	4 人	12 人	11.6 人	1 人	2 人	1.6 人	1 人	10 人	31 人
		(6 人)			(1 人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	44 人	4 人	8 人
	非常勤	21 人	1 人	3 人
看護師	常勤	6 人	1 人	0 人
	非常勤	7 人	0 人	0 人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 29 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 29 年 4 月 2 日から平成 29 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

施設運営上の課題と取組の方向性

平成 29 年度～平成 30 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 働きやすい職場づくり

平成 29 年度は、退職する職員や体調を崩した職員も多く厳しい職員体制でした。平成 30 年度は、より「働きやすい職場づくり」をめざし、有給休暇の取得を増やす取り組みを実施しています。

イ 業務の工夫

業務体制を見直し、少ない人員でも円滑に業務が行えるよう改善しました。高齢者雇用の介護補助員や早朝や夕食時のスポット雇用で介護職員の負担軽減を行っています。

ウ ケアアドバイザー事業の導入

平成 29 年度より事業団の 5 特養に外部評価者を入れ介護サービスの質の点検、評価をし、専門家の助言を得るというケアアドバイザー事業が試行されました。平成 30 年度は本格実施となり、専門家の第三者の目が入ることにより、対応の難しいお客様への助言、不適切なケア・接遇の指摘を通し、日常のケアの質や接遇の向上につながっています。

エ 地域貢献

平成 30 年度の介護予防事業は「足腰しゃっきりトレーニング教室」と名前が変わりましたが継続実施しています。法人の地域貢献事業の認知症カフェ「オレンジカフェたがら」を田柄特養で開催し、たくさんのお客さまがいらして下さっています。

次世代が介護に興味をもってくれるような取り組みとして、中学生の体験学習でリフトの試乗体験や福祉用具を使った介護を体験してもらっています。

平成 30 年度下半期～平成 31 年度の取組予定

ア 制度改正への対応

新加算の褥瘡マネジメント加算は 8 月から排せつ支援加算は 11 月から算定予定です。今後取れる加算の検討をしていきます。

イ 効率的な業務への工夫

安定的な介護人材の確保・育成はもちろん、人員が現状より厳しくなっても運営できる体制や工夫、介護ロボットの導入等の検討を進めていきます。

ウ 新任職員の育成

平成 30 年度は学卒の介護職の新規採用職員が 1 人います。順調に成長していますが、仕事にやりがいをもてる、定着できる育成を継続します。

エ 収入の確保

下半期、特養は、利用率の向上を目指します。そのために新規入居までの日数の短縮、入院者の減少、感染症の予防に取り組みます。

ショートステイは、事業の専任スタッフ制を継続し質の高いサービスを提供し選ばれる施設をめざすとともに、緊急ショートステイも積極的に受け入れます。

関町特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	70人	365日	25,550人
ショート	10人	365日	3,650人
デイ	40人	310日	12,400人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	0人	18人	69人	304人	440人	831人	4.4
ショート	0人	8人	42人	116人	143人	119人	77人	505人	3.1
デイ	18人	26人	379人	407人	223人	212人	75人	1,340人	2.38

平均要介護度 = 要介護1～5利用者の介護度合計 / 要介護1～5利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	24,123人	94.41%
ショート	3,893人	106.7%
デイ	10,524人	84.9%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	16人	17人	1人
デイ	45人	48人	3人

施設運営状況

苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 29 年 10 月	秋祭りのご案内を隣接住宅等に行った際、施設の敷地内の桜や広葉樹の葉が自宅内及び道路に落ちることに対して改善を求められた。	ご迷惑をおかけしていることをお詫び後、可能な範囲で剪定を行うことをお伝えし、業者と職員で対応した。その後、毎朝職員が敷地内と道路等の清掃活動を実施している。
デイ	平成 30 年 7 月	「〇〇住宅に本日来ている 2 号車の送迎が荒い。職員の誘導も下手で、指導がなっていない」と電話で匿名の方よりご意見をいただく。	調査の結果、送迎の実績がない場所であり、同業他社の車輛に対するご意見であることが濃厚となった。地域の方は、車両の区別がつかない場合もあることから、改めて、丁寧な運転と、適切な誘導の徹底を指導した。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特養	平成 29 年 6 月	早朝、離床介助で車いすへの移乗後、床頭台にある着替えを用意している間に、車いすより転落し頭部と顔を打撲した。	通院し、頭部打撲の診断と鼻の横を 2 針縫合した。 介助中にお客様に背を向けることが無いよう、介助前に着替えや必要な用具を事前に用意するよう手順を見直した。
ショートステイ	平成 29 年 12 月	夜間、物音がして居室に伺うと、杖歩行のお客様が居室で床に座っていた。トイレに行こうとされて転倒したとのこと。杖を使用せず、靴も履いていなかった。	受診の結果、右側側肋骨 9 番目のヒビと胸椎 7 番目のつぶれを確認(今回のものかは不明)。入院の必要はなく様子観察となる。その後在宅復帰し、家族支援が受けられない方であるため、同月、地域包括支援センターとの連携のうえで関町特養入所となる。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養	通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域小中学校へ福祉体験授業の講師派遣や地域の各種団体への介護事業への啓発活動へ講師派遣。 ・ 産業見本市に、練馬区介護サービス事業者連絡協議会の一員として、子供を対象とした高齢者疑似体験等を実施。
特養	通 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の福祉施設(介護事業所、児童・保育施設、障がい者施設など)等との、災害時の対応に対するセミナーや意見交換会の企画実施。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特 養	通 年	法人が実施する研修以外に、内部研修を 56 回実施、延べ 220 人が参加。外部研修には、28 回、延べ 34 人参加。さらに外部への講師派遣として、10 回、延べ 27 人を派遣しました。
デ イ	通 年	法人が実施する研修以外に、内部研修を 9 回実施、延べ 97 人が参加。外部研修には、1 回、1 人参加。さらに外部への講師派遣として、5 回、5 人を派遣しました。

配置人員数【平成 30 年 3 月末現在】

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	31 人	7 人	35.8 人	4 人	2 人	4.6 人	5 人	8 人	58 人
		(24 人)			(3 人)					
デイ	1	5 人	8 人	10.7 人	1 人	3 人	2.1 人	2 人	11 人	31 人
		(6 人)			(1 人)					

単位：人（法定配置数）

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	36 人	1 人	0 人
	非常勤	16 人	2 人	2 人
看護師	常勤	5 人	0 人	0 人
	非常勤	4 人	1 人	0 人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 29 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 29 年 4 月 2 日から平成 29 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

施設運営上の課題と取組の方向性

平成 29 年度～平成 30 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 経営基盤の安定に向けた取り組み

関町拠点として管理運営経営会議を設置し、併設事業と一体で経営課題を共有化するなど改善に努めました。物品の購入と管理について一体的に行うなど、無駄を省き効率的な運営に努めました。光熱水費の削減にも取り組み、一定の成果をあげています。ただし、特養単体でみると、構造的な赤字は継続しています。利用率の維持向上は大前提としても、就労条件の変更や増床への取り組みなど、根本的な構造改革の必要性があります。

また、省資源と経費の節減の観点から、国土交通省の補助事業である「省エネ化工事」(空調と照明の省エネ化に関する工事)については前年度より準備し、平成 30 年 8 月末より工事が始まりました。

イ サービスの質の向上への取り組み

「ケアアドバイザー事業」として、外部からの専門家による施設の介護サービスの点検を毎月実施しています。点検の後に職員との意見交換を実施し、課題の確認と進捗の管理に取り組んでいます。

また、職員研修については、内外への研修の参加と伝達研修で、職員の資質を高めるための取り組みを継続しています。

特に、平成 30 年度からはこれまでの課題であった全ての職員の基本サービスの向上のために、毎週異なるテーマで 1 日に 2 回「10 分研修」として全員が受講できる仕組みを作り取り組んでいます。

ウ 地域との連携の強化と社会貢献について

地域の防災会と連携した防災訓練を毎月実施するとともに「地域施設連携防災ネットワーク」の世話人施設として、防災に関するセミナーや意見交換会を企画実施するなど、地域の防災力、連携の強化の推進役としての役割を果たしています。

また、介護や福祉に関心を持っていただくための取り組みも、重要な役割だと認識しています。地域の小・中学校等と連携して「福祉体験学習」や「総合学習」の時間で、「車いす体験や高齢者疑似体験教室」を訪問して実施するなど、活動は広がりを見せています。

平成 30 年度下半期～平成 31 年度の取組予定

ア 安定した経営のため、「利用率の確保」とともに、「省エネ化工事」による光熱水費の削減は大いに期待するところです。省エネルギーへの取り組みを強化して、より安定的な運営ができるよう取り組みます。

イ 「ケアアドバイザー事業」に基づくサービスの改善と、「10 分研修」の定着による基本技術と知識の向上を目指し、サービスの向上に取り組めます。

ウ 介護人材の確保が困難な中で、「離職防止への取り組み」「地域への啓発活動の強化」「家族との連携の強化」に継続して取り組みます。

エ 地域との関係を深め、地域福祉の拠点となるよう、「練馬区介護サービス事業者連絡協議会」の活動に取り組むとともに、「施設開放」「専門人材の講師等への派遣」「地域の安全性の向上への取り組み」などを通じて、地域連携を強化していきます。

4 富士見台特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	50人	365日	18,250人
ショート	6人	365日	2,190人
デイ	40人	310日	12,400人
認知症デイ	12人	310日	3,720人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	0人	22人	37人	184人	333人	576人	4.4
ショート	0人	9人	14人	38人	55人	62人	110人	228人	3.7
デイ	5人	17人	186人	476人	206人	178人	91人	1,159人	2.57
認知症デイ	0人	0人	6人	10人	61人	68人	92人	237人	3.97

平均要介護度 = 要介護1～5利用者の介護度合計 / 要介護1～5利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	17,343人	95.0%
ショート	2,255人	103.0%
デイ	10,380人	83.7%
認知症デイ	2,683人	72.1%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	17人	18人	1人
デイ	37人	35人	2人
認知症 デイ	7人	18人	11人

施設運営状況
苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	平成 29 年 12 月	特別養護老人ホームへの入所案内時にショートステイ利用中のケアに心配なことがあった。申し出事項は、12月13日ベッド側臥位、頭が枕から外れ唾液が大量に出ていて顔色が悪かった。以前、痰で衣類が汚れているのに着替えていなかった。食事の際に入れ歯が入っていないことがあった。	施設長、介護係長、看護係長より謝罪した。多職種で適切なケアについて検討し、改善策をご家族に報告した。職員へは伝達研修をした。
デ イ	平成 30 年 1 月	「朝、デイサービスでいつもと違う席に案内され、どうしてか理由を尋ねたが何の説明もなかった。そのまま座らされ、顔なじみの方が隣席にいない、一日誰とも話せなかった。」と男性のお客様よりお電話で申し出があった。	所長、相談員2名でお客様宅に伺い、謝罪する。説明をしなかった職員には面談をし、お客様の気持ちをくみ取った対応ができなかったこと、お客様からの信頼を著しく失ってしまったことを伝え、お客様お一人おひとりとしっかり向き合い対応をすることを指導した。また、全職員で苦情を共有し、お客様への対応、接遇について研修をした。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	平成 29 年 10 月	朝食後の口腔ケアを終えた後に車いす前に食堂椅子を置き、浮腫みの強い下肢を拳上し、職員が離れた。その後車いす上で仰け反るように後方へ車いすごと転倒し頭部打撲。	後頭部内出血あり、クーリングしながら受診する。頭蓋骨線状骨折・脳挫傷と診断され経過観察のため入院。経過良好にて2週間後退院された。
デ イ	平成 29 年 5 月	帰りの送迎時、送迎バスから自宅の団地の階段に向かっていく際にバランスを崩し、コンクリートの通路より砂利のひいてあるところに足を踏み外し、尻もちをつくように転倒した。自立歩行の方で、左側にいた添乗職員が支えようとしたが、支え切れなかった。	独居の方なので、ご家族に連絡し、受診する。骨折の所見無しとの診断だったが、2日後に再度受診し、第一腰椎圧迫骨折と診断される。独居のため、ショートステイを利用し、1か月後自宅へ戻り、デイサービスを再開される。その後のデイ利用時は、自立歩行ではあるが、荷物は添乗員が持ち、都度コンクリートの通路の真ん中を歩くように声かけをしている。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特養 デイ	通年	従前からの区受託事業「筋力向上トレーニング」の他、その事業修了者の自主グループ（むらさきの会、さつき会）に週2日毎1時間、シニア貯筋体操に月4回日曜日の1時間リハビリ室を開放の他、地域ボランティア（福朗会）の手芸・ナンプレ活動の定期的な施設開放と多くのボランティアによる施設内活動の支援を継続しました。高齢者支え合いサポーター育成研修では、施設実習、区内施設へのコーディネイトを担当し活動の支援をしました。 平成28年7月からの地域ボランティア福朗会による「たまり場ふくろう」が平成29年度は「街角ケアカフェ」として毎火・木の週2回開催しています。地域高齢者、ボランティア、特別養護老人ホーム入所者、家族等の交流の場になっています。
特養	通年	施設長は、大学での「社会福祉施設の実践「福祉施設の高齢者」、厚生労働省高齢者権利擁護等推進事業「これからの特別養護老人ホームにおける看護リーダー養成研修」、東京都高齢者権利擁護推進事業「施設内看護実践者研修」、東京都「暮らしの場における看取り支援事業」東京都介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修事業、東京都介護職員スキルアップ研修事業等に携わっています。職員は「大学で介護福祉を学ぶこと」、区内小・中学校での「総合学習プログラム福祉体験授業」等への出講のほか、法人以外の施設からの研修依頼、施設見学は日程調整の上、お断りすることなく対応しています。 実習は、介護専門学校・社会福祉専攻大学生・看護大学生・市民後見人養成講座受講者・社会型後見人養成事業研修受講者・成年後見人講習会受講者・教職員・練馬区パワーアップカレッジ受講生、人事院公務員研修等の幅広い受け入れを継続しています。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	平成29年度は練馬介護人材育成・研修センターでの研修を延37名、外部研修を延10名受講しました。施設内では20のテーマの研修を企画・開催して延303名が参加し、介護サービスの質向上、業務の標準化に努めました。特に認知症ケアの対応に関する研修と運営基準上の必要研修を網羅しました。
特養	通年	認知症ケアについては、法人の「グランドデザイン」を実践するために「認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式」を活用した情報収集、アセスメントをケアプランに反映させるための研修 施設環境づくりの継続するための研修 お客様の困りごとを解決するための「事例検討会」研修 認知症高齢者への対応方法としてのユマニチュード・メソッドの学習会を開催しました。

配置人員数【平成 30 年 3 月末現在】

単位：人（法定配置数）

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	20 人	5 人	22.8 人	4 人	3 人	6.2 人	4 人	6 人	43 人
		(16 人)			(3 人)					
デイ	1	7 人	11 人	14.6 人	1 人	3 人	1.5 人	4 人	15 人	42 人
		(8 人 (認知症 2 人))			(1 人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	32 人	1 人	3 人
	非常勤	15 人	2 人	1 人
看護師	常勤	5 人	0 人	0 人
	非常勤	7 人	0 人	1 人

人員数は特養（ショート含）・デイの合計数

年度当初職員数は、平成 29 年 4 月 1 日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成 29 年 4 月 2 日から平成 29 年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(3) 施設運営上の課題と取組の方向性

平成 29 年度～平成 30 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 特別養護老人ホーム

- ・平成 29 年度の、年間平均介護度 4.4、利用率が 95.03%で事業活動資金収支差額 - 26,963,122 円でした。
- ・30 年度は介護報酬改定に伴う加算要件の変更、新設への体制を作りました。夜勤職員体制加算はたんの吸引等医療行為の認定証保有職員の配置でに変更、新設の排せつ支援計画、褥瘡マネジメント加算の届出をしました。
- ・施設での終末期ケア・看取りについては、東京都指導検査基準にある「PDCA サイクルによる看取り介護」の体制を維持し実践しています。また、2018 年 3 月改定「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」の ACP (アドバンス・ケア・プランニング) に基づいたケアとなるようご家族への繰り返しの意向の確認を医療・施設の多職種が連携し取り組んでいます。

イ ショートステイ

- ・2 か月前予約調整の時点では 100%に近い予約を入れるよう調整しますが、長期申し込みの方の入院や施設入所でのキャンセルが相次ぎました。キャンセル待ちの方と緊急ショートで目標の 100%を達成することができました。
- ・平均介護度は 3.7 で、在宅酸素、胃瘻、膀胱留置カテーテル、インシュリンなど医療ニーズの高い方も訪問診療・訪問看護との連携し積極的に受け入れました。
- ・平成 29 年度は、終末期診断のあったショートステイ利用者を受け入れ、ご家族の意向、訪問診療医の指示や意見を確認しながら看取りをしました。

平成 30 年度下半期～平成 31 年度の取組予定

ア 特養利用率の維持

- ・感染症の持ち込みを予防し事業運営への影響を防止します。
- ・特別養護老人ホームへの入所時には、施設における終末期ケアについて説明し、理解を得て、最期まで施設での穏やかな生活を支援します。
- ・満床であっても、事前面接やご家族の施設見学を済ませて複数名の方に待機していただき、退所後の早期入所につなげ空床期間を短縮します。

イ ショートステイ新規利用者の受け入れとサービスの質向上

- ・利用前後のご家族やケアマネジャーとの連絡による情報の共有と要望・ご意見等の聞き取りで、満足度の高い利用になるよう調整します。
- ・「送迎ご家族付添いなし・看護職員の添乗」「記録の充実」「プログラム活動の充実」などを継続し利用者・ご家族の満足度を更に向上させます。

ウ 施設建物、設備の保全管理

- ・既存建築物省エネ推進事業による、照明・空調の取り換え工事が終了し、お客様の生活環境と職員の労働環境の改善となりました。室温調整機能を活用し、冬季の温度・湿度調整で感染症の蔓延のない施設として管理していきます。

エ 認知症ケアの推進

- ・尊厳を尊重した適切なケアを実践しお客様に穏やかな施設生活をしていただきます。

オ 地域貢献の展開

- ・地域への施設開放や、週 2 回の開催が定着した街角カフェ「たまり場ふくろう」の開催支援を継続します。

5 大泉特別養護老人ホーム等

利用者状況

定員等

	定員	年間稼働日数	利用可能定員
特養	120人	365日	43,800人
ショート	15人	365日	5,475人
デイ	40人	310日	12,400人
認知症デイ	12人	310日	3,720人

利用可能定員 = 定員 × 年間稼働日数

利用者数（実数）

	要支援		要介護					利用者数計	平均要介護度
	1	2	1	2	3	4	5		
特養	-	-	24人	21人	206人	507人	677人	1,435人	4.2
ショート	2人	1人	77人	96人	148人	174人	211人	709人	3.5
デイ	0人	24人	238人	371人	243人	178人	71人	1,125人	2.52
認知症デイ	0人	0人	11人	10人	34人	50人	113人	218人	4.12

平均要介護度 = 要介護1～5利用者の介護度合計 / 要介護1～5利用者数計

延利用者数

	延利用者数計	稼働率
特養	42,831人	97.8%
ショート	5,293人	96.7%
デイ	10,278人	82.9%
認知症デイ	2,037人	54.8%

稼働率 = 延利用者数計 / 利用可能定員 × 100

新規入退所・登録状況

	新規入所（登録）者数	退所（利用中止）者数	増減
特養	25 人	25 人	0 人
デイ	45 人	34 人	11 人
認知症 デイ	5 人	17 人	12 人

施設運営状況
苦情等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	平成 29 年 5 月	高齢社会対策課管理係より、「ねりまちレポーターから施設敷地内の樹木が伸びて、歩行者用の信号機が良く見えない」との苦情が上がっているとの話があった。	すぐに状況を確認し、剪定業者に依頼し、信号機が見えるようにした。後日、施設全体の剪定も実施した。
特 養	平成 29 年 7 月	本人持ちの車いすだが、「NO.15」とシールが貼られている。本人の名札も付いているが施設の備品のように感じた。本人に失礼である。	同じ建物内には、他事業の車いすも所有しており、管理のためのシールを貼っていることを説明した。併せて施設の備品と思われるような表記方法は配慮に欠けていた旨を謝罪し、ご指摘いただいたことに対して感謝の意を伝えた。

事故等の対応

施設	発生年月	内容	対応
特 養	平成 29 年 8 月	本人より痛みの訴えがあり整形外科を受診したところ、左大腿骨頸部骨折との診断があった。個室で自由に生活をされており、転倒などされた場面は確認できていない。	保存療法となり、ADL の変化に伴い 3 点サイドレールの設置、ベッド横足元側にすのこ台設置、すのこ台に加圧式センサーを設置し、転倒防止策を講じた。
特 養	平成 29 年 11 月	本人より腰部の痛みの訴えがあり、整形外科受診したところ、第 11 胸椎圧迫骨折の診断があった。加齢に伴い骨が脆くなっているとのことであった。	以前も第 12 胸椎圧迫骨折をされており、骨が脆くなっていることを再認識し、介助にあたることにした。

地域貢献に関する取組状況

施設	実施年月	内容
特 養 デ イ	通 年	地域のボランティア団体に 1 階のデイ食堂を貸し出し、「虹のカフェ大泉」を毎週水曜日の午後開催し、地域の子供から高齢者まで多世代が集う場所として定着している。 「高齢者支え合いサポーター育成事業」に取り組み、実習施設としての受講生の受け入れとコーディネーターとしての役割を担っている。
特 養 デ イ	通 年	障がい者雇用と就業訓練等の受け入れに、積極的に取り組んでいる。 「練馬区学習支援事業(中 3 勉強会)」として、1 階デイ食堂を貸し出し、学習支場所の提供を継続している。

研修等の実施状況

施設	実施年月	内容
特養	通年	年間を通じて、職員の資質向上を目指して、法人や研修センター主催の研修47回(延べ82名)、外部研修31回(延べ38名)実施した。
特養	通年	年間を通じて、人権・基本介護技術・感染症予防・認知症ケアの向上等を目指した内部研修を、26回(延べ539名)実施した。隣接の大泉福祉作業所と合同の勉強会を年1回実施した。

配置人員数【平成30年3月末現在】

単位：人(法定配置数)

	施設長	介護士			看護師			その他		合計
		常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	常勤換算	常勤	非常勤	
特養 (ショート含)	1	48人	11人	57.7人	6人	4人	7.9人	9人	13人	92人
		(41人)			(4人)					
デイ	1	9人	11人	16.9人	2人	3人	2.8人	4人	13人	43人
		(8人(認知症2人))			(1人)					

介護士・看護師の入退職の状況

職種・雇用形態		年度当初職員数	年度内入職者数	年度内離職者数
介護士	常勤	54人	2人	4人
	非常勤	24人	2人	3人
看護師	常勤	6人	1人	1人
	非常勤	8人	0人	1人

人員数は特養(ショート含)・デイの合計数

年度当初職員数は、平成29年4月1日時点の在籍職員数

年度内入職者数は、平成29年4月2日から平成29年度末までに入職した職員数

年度内離職者数は、当該年度内に離職した者のうち、あらかじめ期間を定めた雇用契約の終了または定年退職者による離職以外の事由による離職者数

(3) 施設運営上の課題と取組の方向性

平成 29 年度～平成 30 年度上半期の運営課題と取組の状況

ア 事業基盤の安定の取り組み

- ・平成 29 年度は、特養利用率 97.8%、ショートステイ利用率 96.7%、合算で 97.7% でした。ショートステイの利用率低迷も、居室整備や営業活動により徐々に回復傾向にあります。
- ・省資源、省エネルギー活動に継続して取り組みましたが、平成 29 年度は、光熱水費の使用量は 5.5%削減できましたが、費用は単価上昇のため増加しています。

イ サービス向上の取り組み

- ・外部ケアアドバイザーの評価を定期的に受け、日々のケアの質の向上と職員の意識向上に取り組みました。

ウ 施設建物の保全・管理の取り組み

- ・築 19 年となり、建物、設備、備品等の劣化に伴う修繕費等の増加が顕著となりましたが、緊急性のある工事や、設備等の故障に早めの対応を行い、事業に支障をきたさないよう努めました。

エ 地域連携、地域貢献への取り組み

- ・施設開放事業として「施設貸し出し事業」を継続、練馬区学習支援事業の勉強会は年 56 回開催し、施設のお客様から応援メッセージを届ける交流も始めました。
- ・「虹のカフェ大泉」は 28 年度オープン以来、週 1 回定期開催し、平均 30 名の利用実績があり、多世代の交流場所として定着しています。

平成 30 年度下半期～平成 31 年度の取組予定

ア 安定した経営の取り組み

- ・引き続き、特養利用率 98%とショートステイの利用率 98%を目指します。
- ・施設建物および設備の老朽化対策として、計画的な修繕と保全に努めていきます。

イ サービス向上の取り組み

- ・ケアアドバイザー事業を継続して、お客様の生活環境の整備や人権および接遇に配慮したケアの提供を目指します。
- ・排せつケア支援や看取り介護、認知症ケアの充実に向けて、取り組みます。

ウ 人材定着と離職防止の取り組み

- ・職員の働きやすさを意識した職場環境づくりを、継続していきます。
- ・介護ロボットの導入による、業務負担軽減に取り組みます。

エ 地域連携、社会貢献への取り組み

- ・施設開放事業としての、「虹のカフェ大泉」は、「まちかどケアカフェ」の提携事業所としての役割も担い、今後も継続支援していきます。「練馬区学習支援事業」も同様に支援していきます。
- ・隣接の大泉福祉作業所と連携を図り、洗濯業務の一部委託や勉強会、防災訓練等を実施、協力関係を深めます。
- ・大泉地域の社会福祉法人が加入している「大泉法人ネット」で、地域の中でのつながりを強化し、新たに「農福連携」に取り組んでいきます。